
雪の降る街

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪の降る街

【Nコード】

N3191B

【作者名】

三毛猫

【あらすじ】

白い粉に埋もれていくこの街で、僕は生きていくことに疲れ果てていた…ただ思うのは君の――

（前書き）

初参加のテーマ小説の、雪小説です。小説というより、詩のような仕上がりです。ほかの方々も同じく「雪小説」で投稿なさっているのでよろしかったら是非…

しんしんと降り続ける白い粉。

綿のように柔らかいのに、人の命を奪っていく。

もうどれだけの時を過しただろうか。

この白い粉はいつまで降るのだろうか。

僕の命はいつ連れて逝かれるのだろうか。

冷たい、重い、眠い・・・こんなにも柔らかいのに。

どんなベッドよりも寝心地がいいのに・・・何故だろう？

「起きて！！こんなモノに負けないで！！」

ああ、遠くで僕を呼んでいる。

——本当に？

僕は呼ばれている？

柔らかくて気持ちいいのに——何故？

白い白い世界。

見渡すかぎりの白。

他の色はない。

でもここに居るのは居心地が悪い——何故？

まぶたを開ける。

やっぱりそこは白い。
頬に温かいモノが伝う。

これは何？
温かい・・・・・・・・

「お願い、どこにも逝かないで・・・」

僕は呼ばれている——誰に？
ああ、遠くで僕を呼んでいる。

——待つて！！

そうだ。

僕は君に。

君に言わなきゃいけない。

しんしんと降り続ける白い粉。
白い白い世界。

見えたのは君の涙。
僕は君の頬に手を触れる。
そこにはたぐさんの、繋がれた管。
僕の命を繋ぐ管。

これを取り去ったら僕の命は奪われる。
こんなものに頼らなければ生きていけない。

ねえ。

君は何で泣いているの？

そんなに温かいのに。

僕の涙はきつと冷たいだろう。

——あの白い粉のように。

重く、君を殺してしまう。

僕なんかのために君が死んでしまうのも、繋がれてしまうのも嫌だ。

「僕は君に言わなきゃいけない」

酸素を送るマスクが邪魔で声がこもってしまう。

ちゃんと言わなきゃいけない。

ねえ、僕は君に泣いてほしくない。

君の温かいモノを失わせたくない。

「僕は・・・君を愛せない」

君の温かい身体を抱き締める力さえない僕。

——どうして傍にいてなんて言えるだろう？

僕の心はあの白い粉のように冷たくなったのだろうか？

あれにのまれない、のまれたくないと思った心に反して・・・

ああ、遠くで君が泣いている。

泣いてほしくない。

泣かないで。

君が泣くと僕の頬が温かくなるんだ。

染み込むように心まで。

「あなたは私を愛していないの？」

いいえ。

僕は君を愛してる。

だけと言えないだろう？

抱き締めることも出来ない腕しかないのに。

一生を誓う命もないのに。

どうして君を愛してるなんて言えるだろう。

「僕は君を愛せない。愛していない」

また君は泣くんだね？

でも僕を忘れて。

愛してる。

心から。

でも君を死なせるわけにはいかない。

僕の心は白い粉に埋まっていくな。

冷たくて、重くて、悲しくて。

君を失うのが怖くて。

しんしんと降り続ける白い粉。

君はもういない。

見て、この白い粉を。

僕はこれが溶けないうちに消えるから。

ねえ、どうか君は泣かないで。

僕の心は温かくなってしまうから。

君を望んでしまうから。

温かいモノがほしかった。

安らげる場所がほしかった。

僕は望みすぎたね。

君を。

さようなら。

僕は逝く。

白い白い世界へ。

最期に思うのは君の温かい、涙。
白い粉を溶かす、涙。

ああ、遠くで君が泣いている。
嬉しい——君の涙が。
嬉しい——君の涙が。

泣かないで、泣かないで。
僕は逝く。

白い白い粉の世界に。

温かさを亡くした冷たい世界へ——

（後書き）

少し哀しみ色がネコは好きなんです（〃＾；　；＾〃）雪はネコにとつて死を連想させるもので、このような仕上がりになりました。読んでくださってありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3191b/>

雪の降る街

2010年10月9日02時17分発行